



「2014」ちょっと辛口ですが

いわゆる「アベノミクス」による円安株高状態が始まったのは、ちょうど2年前。そしてこの原稿を書いている11月下旬、再び総選挙へ向けて政界が動き出しています。ただ前回とは違い、目玉閣僚の辞任やその余波でカジノを含む「IR法案」審議がまたまた先送りになるなど、高揚感のない選挙となりそうな気配も…。そんな中、今回は年内最後の掲載になりますので、遊技業界の2014年を振り返り、気になった出来事について書きたいと思います。

今年は業界にとって春と秋、大きな動きがありました。春は消費税率のアップ、そして秋はパチスロの試験基準に関する変更です。前者は貸し玉料金や賞品交換がどうなるのか…ということが、早くから注目されていました。のち、警察庁からいくつかのパターンが提示されたことにより、比較的スムーズに4月1日を迎えられ、その後も混乱なくパチンコを楽しむことができます。ただ、外税か内税かなど、細かい部分についてきちんと表示していたホール店舗は意外に少なく、そうした情報公開面ではまだ議論の余地ありと感じました。

一方、かなり急な出来事として業界を駆け巡ったのが、9月のパチスロ型式試験内容変更です。パチスロといえば、かつてはビッグやレギュラーボーナスを揃えるものでしたが、90年代以降は小役&シングルボーナスの集中や、リプレイ出現率がアップするRT、

晶表示や役モノも進化し、チャンスが来ればピカピカ、ガチャガチャと騒がしく告知を行うのも当たり前になります。5号機以降はボーナスストック禁止の余波があったものの、サブ基盤を活用することでいわば「抜け穴」的に、大量払い出しのゾーンを作り出しました。

9月の変更は、そうした動きに「待った」をかける大きな出来事となり、パチスロ業界は再び新たなスタートを切る格好となっています。私個人としてはAタイプが昔から好きなので、大きな戸惑いは感じていませんが、来年にかけて業界全体としての動向は、見逃せない状況になっていくでしょう。

これらの他、気になった出来事はカジノ法案に伴って聞こえて来た「パチンコ税」創設の動きでした。幸い、衆議院解散を前にそちらについては見送りとなったようですが、世間では予想外に賛成という声が大きかったというニュースも流れており、加えて「依存症」といった問題も、クローズアップされる機会が増えてしまったように感じます。こうした足下の不安定な状況打破のため、やはり業界が一丸となってイメージアップに努めて行くしかないでしょう。

何だかここまでネガティブな項目ばかり取り上げてしまいましたが、最後にぜひ書いておきたいのが、4月に2年ぶりに開催された「パチンコ&パチスロフェスタ2014」です。特に羽根モノタイプがクローズアップされ、その後も様々なメーカーから同タイプが続々登場したのも、大きな出来事でした。羽根モノの大きなメリットは、少ない投資で玉と役モノの動きを誰もが楽しめることです。継続的な新規ファンの開拓に向けても、業界からのさらなるバックアップ体制が必要なのは、間違いのないと思います。

政局そして業界情勢が混沌とした中ではありますが、2015年が素晴らしい年になるように、お祈りしています。

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)



「パチンコ&パチスロフェスタ2014」で、羽根モノで熱心に遊ぶ来場者